

# 対策

前編

文：災害危機管理アドバイザー 和田隆昌

## 「地震多発」時代に入っている

2018年は大阪北部地震、北海道胆振東部地震が発生、大きな被害を生じましたが、実は日本列島全体で震度4から震度5強までの規模の地震が多発するようになっていきます。これは日本列島全体の地震活動が活発になり、この先数十年にわたってこの状態が続くと考えられます。人的被害が発生する震度6強から震度7の地震は日本全国どこでも発生しますが、津波・土砂災害・火災など二次的な災害は地域によって異なります。

まずは自分自身で対応可能な「家屋の倒壊」「家具の転倒」への対策として「寝室を2階にする」「転倒防止器具の使用」から始めましょう。地震による人的被害のほとんどは寝室で発生するため、安全な寝室を確保することは効果的な地震対策になります。

## ハザードマップをどう利用するか

2018年西日本豪雨で被害の大きかった岡山県倉敷市。浸水による溺死など、家屋にとどまった多くの方が亡くなりましたが、水没した地域はハザードマップで浸水が予測されたものそのものでした。多くの住民が、その重要性に気付いていなかったために避難できませんでし



ハザードマップ岡山県倉敷市ホームページより

た。ハザードマップはその地域の災害リスクの大小を示すもの。危機回避に利用できていたら被害はゼロだったかもしれません。

豪雨による洪水被害が予測される場合、より安全な場所(高台や避難場所など)への避難経路を確かめることはもちろん、道路が冠水して避難が困難になる前により安全な場所へ移動しましょう。また、移動が夜間にかかるらないように、日中に避難を終えることも大切です。

## 自治体発表の情報と避難開始のタイミング

2016年に自治体から発表される情報に変更がありました。

○避難指示→避難指示(緊急)  
○避難勧告→避難勧告※変更なし  
○避難準備情報→避難準備・高齢者等避難開始

右記のようになりました。これは、各情報の意味するところが住民に伝わっていない、と考えられたための変更で、特に家族の中に幼児や高齢者、歩行の不自な方がいる場合には、より早い段階での避難行動が求められます。豪雨発生時は道路の冠水や夜間の避難には危険も生じます。地域全体で避難のタイミングを共有し合うような住民同士の体制づくりが求められます。また避難勧告や避難指示が発令された場合は、すでに被害が発生している可能性があります。速やかに安全な場所へ移動するようにしましょう。

警報級の大規模な災害の発生が予測される場合、気象庁は地域ごとにそのピークを予想して発表します。ピーク時までには避難行動を終え、外出しないようにしましょう。

△△市 発令中の 警報・注意報などの種別	今後の推移 (■警報級 ■注意報級)										備考・ 関連する現象
	4日					5日					
	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18		
大雨 (浸水害) (土砂災害)	1時間最大雨量(ミリ)	10	10	30	30	70	70	50	30		浸水注意
											土砂災害注意
洪水 (洪水害)											氾濫
暴風 (風向・風速 (矢印・メートル))	地上	10	15	20	20	25	25	20	15	12	以降も注意報級
	海上	10	15	25	25	30	30	25	15	15	以降も注意報級
波浪	波高(メートル)	4.0	6.0	6.0	6.0	8.0	8.0	8.0	6.0	6.0	以降も警報級うねり
高潮	潮位(メートル)	0.7	0.7	1.5	2.0	2.5	3.0	2.0	1.5		ピークは5日6時頃
雪											竜巻、ひょう

着色した種別は今後警報に切り替える可能性が高い注意報を表しています